



the most beautiful
villages
in japan
「日本で最も美しい村」連合

「日本で最も美しい村」連合 オンライン大学 2022.7.20



「農の営み」と
「地域の課題」と
「持続可能な村づくり」

北海道赤井川村
Village 02

1

今日 お話しすること

1. 自己紹介
2. 農の営み 農の営みが育む農村景観と新規就農
3. 地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！
4. 持続可能な村づくり カーボンニュートラルへ向けて！

2

自己紹介



<趣味>

子育て、山歩き、
本を読むこと、羽球

<地域活動>

前クロカン少年団会長
前 小中PTA副会長
町内会事業部長

<職歴>

平成5年 赤井川村役場 奉職
「福祉」の仕事を担当
平成14年 「農業」の仕事を担当
平成22年 「総務」の仕事を担当
平成24年 「総務課総務係長」
平成25年 「東京財団週末学校」受講
平成26年 「産業課地域振興係長」
道の駅開業の仕事を担当
平成28年 総務に戻る……
ふるさと納税の仕事を担当
平成30年 「総務課主幹」
令和元年7月「総務課長」

現在に至る

3

北海道赤井川村を象徴する『カルデラ盆地』の景観



人口約1050人
カルデラ盆地の中に人口の約7割が居住

4

－カルデラ盆地の景観づくり－
住民による手づくりの”修景”活動



住民

営林署

村



5

農の営み

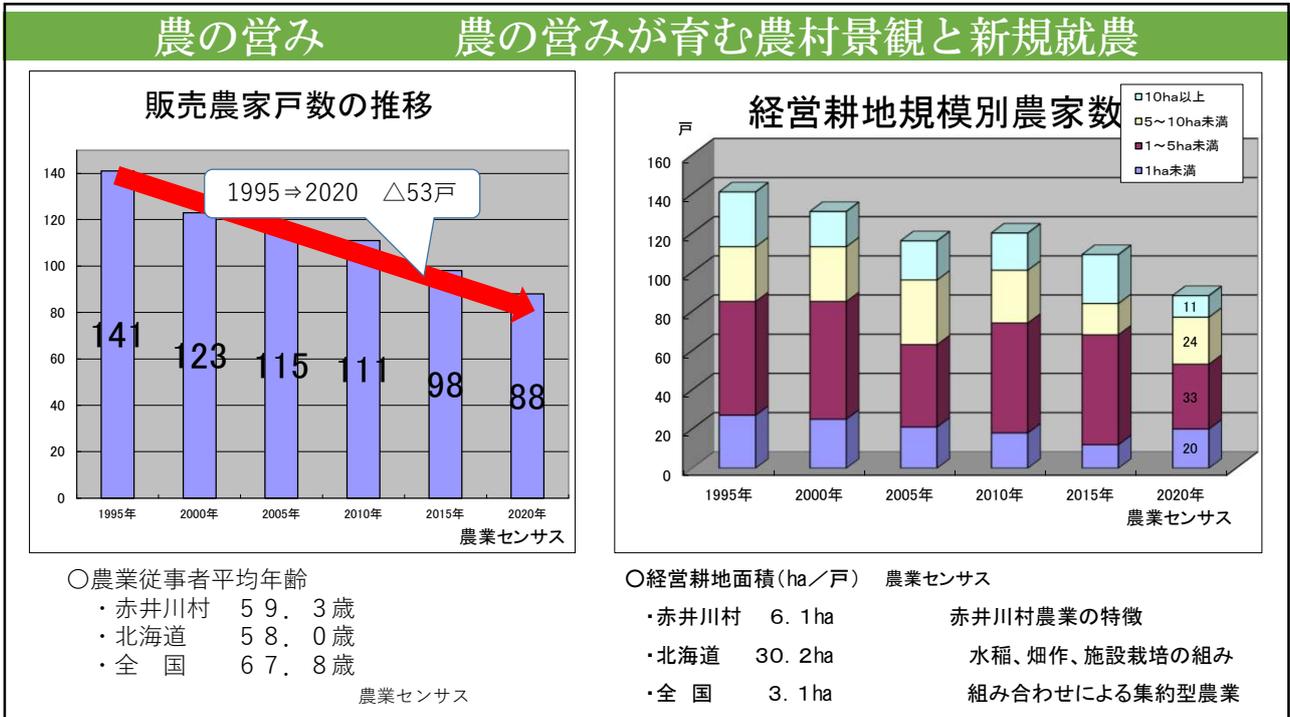
農の営みが育む農村景観と新規就農



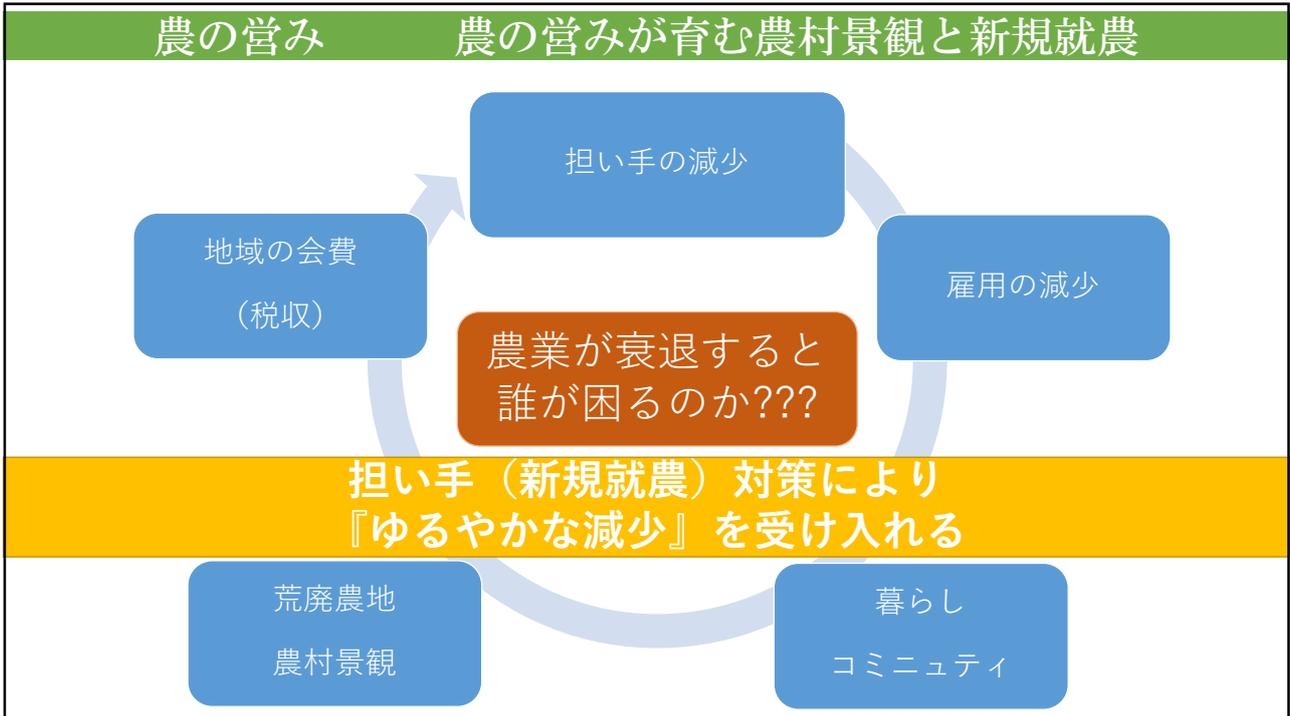
6



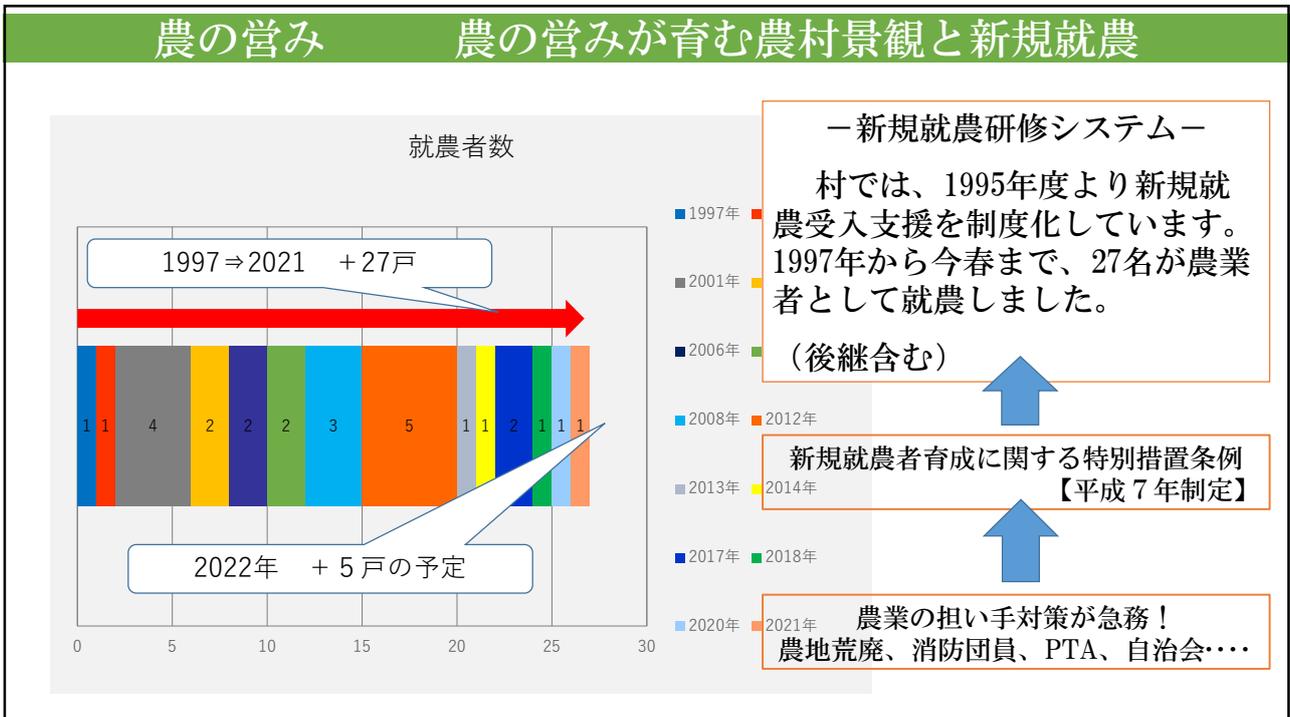
7



8



9



10

農の営み 農の営みが育む農村景観と新規就農

■研修期間

研修形態にもよりますが基本2年間です。

①研修基本パターン（新規就農研修）

J A新おたるが研修受入先となって2年間研修します。

②個人農家受入パターン(新規就農研修)

農家が直接受入、2年間指導を受ける研修です。

③自主研修パターン

所有権以外で利用する農地で3年間の自主研修。

未利用農地に限定した研修。3年間の実績により判断。

④その他

法人組織への就農（農の雇用）など。

－新たな入口の模索－

地域おこし協力隊員制度
を活用した新規就農者の
受け入れを検討

新規就農希望者現地見学会

8/21（日） 9/18（日）

参加費助成制度有り
詳しくは赤井川村ホームページを
ご覧ください

11

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！



赤井川村開村120年記念
聞き書き集
令和2年3月発行：赤井川村

聞き書き集から…

○余市まで馬車で4時間くらい。バスも走っていた。あの当時、バスの運転手さんって言ったら、赤井川の中でみたら、今の飛行機のパイロット以上の位置だった。とにかく頼りになる人。その人に頼んだら余市まで行ける。そんな感じでした。

<話し手>昭和16年生まれ 女性



完成した本を受け取る「語り手」の新井さん（左）

聞き書き集から…

○高校は、余市。バスで通ってたな。そういえば、初めて親無しでバスに乗って余市へ行ったのは中2のとき。はじめての高校バス通学も緊張したわ。

<話し手>昭和58年生まれ 男性



12

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

－ 赤井川村の路線バスの歴史 －

- 1933年（昭和8年） 赤井川村、余市町、銀山間 バス運行開始
（余市赤井川自動車合資会社）
- 1943年（昭和18年） 北海道中央乗合自動車に合併
（現在の北海道中央バス）
赤井川営業所設置
- 1948年（昭和23年） 余市町へ営業所が移転
- 1963年（昭和38年）12月 冬期間のバス運行開始
- 2019年（令和元年）12月 日・祝全便運休
赤井川村が代替交通運行（地域公共交通バス）
- 2020年（令和2年）11月 バス路線の存廃協議の申し入れ
- 2022年（令和4年）3月31日 中央バス赤井川廃止
- 2022年（令和4年）4月1日 むらバス運行



赤井川村史より①
冬期間の村の外部との交通の確保は村民の切実な願いであった。…待望のバスの運行はもちろん…文字通り陸の孤島からの脱却であった。



赤井川村史より①

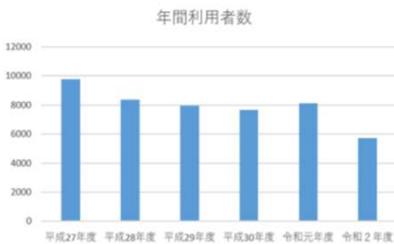
冬期間の村の外部との交通の確保は村民の切実な願いであった。…待望のバスの運行はもちろん…文字通り陸の孤島からの脱却であった。

赤井川村史より②

…戦争で物資が不足するようになり、乗合自動車もガソリンから木炭ガスに変わるが走り続けた…

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

バス利用状況の推移



平成27年度（2015年度） 約10,000人の利用
平均：27人／日

平成29年度（2017年度） 約8,000人の利用
平均：22人／日

令和2年度（2020年度） 約6,000人の利用
平均：16人／日

<2つの視点>
○地域自らデザインする公共交通の実現
=暮らしやすさ
○地域内交通資源のフル活用
=しごとの創出

2022.4.1からの新しい
地域公共交通の確保を目指す！

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

実証運行（2021年10月～11月）の特徴：地域事業者の協力体制による公共交通体系の構築

新たな公共交通の方向性

地域が自らデザインする公共交通（暮らしやすさ）

2020年度から実施した各種バス利用調査から、高校生の通学や高齢者の買い物、通院等の利便性向上を図る運行ルートを地域でデザインし、「暮らしやすさ」による定住促進効果を高める。

【バス利用調査・意見交換会から】

- ・バス利用は通学、通院、買い物が中心
- ・通学先は小樽市内が多数
- ・通院は、小樽4割、余市6割
- ・通勤利用も一定数存在



利便性向上

地域内交通資源のフル活用（しごとの創出）

村内唯一のタクシー事業者である「赤井川ハイヤー」と国内有数のリゾート「キロロリゾート」との連携体制により、2022年度からの新しい公共交通体制を構築

地域経済の循環



15

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！



むらバス運行の効果

- ◆利用者数が1.5倍に！
- ◆小樽市内全高校がバス通学圏内に！
- ◆土日祝のバス運行を減便！

16

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

◆公共交通で村の未来をつなぐプロジェクト



赤井川村の地域課題（実情）を知っていただく機会

- ・ガバメント・クラウドファンディング
- ・企業版ふるさと納税

「共感」＝「関係人口」
寄付者との“つながり”を大切にする取り組み

17

地域の課題 村内唯一の公共交通機関がなくなる！

◆今の「ピンチ」を「チャンス」に。

路線バス廃止という「困難」から、

⇒地域でデザインする公共交通という「挑戦」へ。

⇒その挑戦から、「飛躍」へ(利便性向上＋脱炭素(CO2削減)へ)

18

持続可能なむらづくり カーボンニュートラルに向けて！

赤井川村エネルギービジョン策定（2020.4）



19

持続可能なむらづくり カーボンニュートラルに向けて！

そもそも赤井川村におけるCO2排出量は？？？？

環境省公表値 2019年度排出量 13,000t-CO2/年



北海道大学・民間企業との連携 赤井川村の二酸化炭素排出量の現状を探る

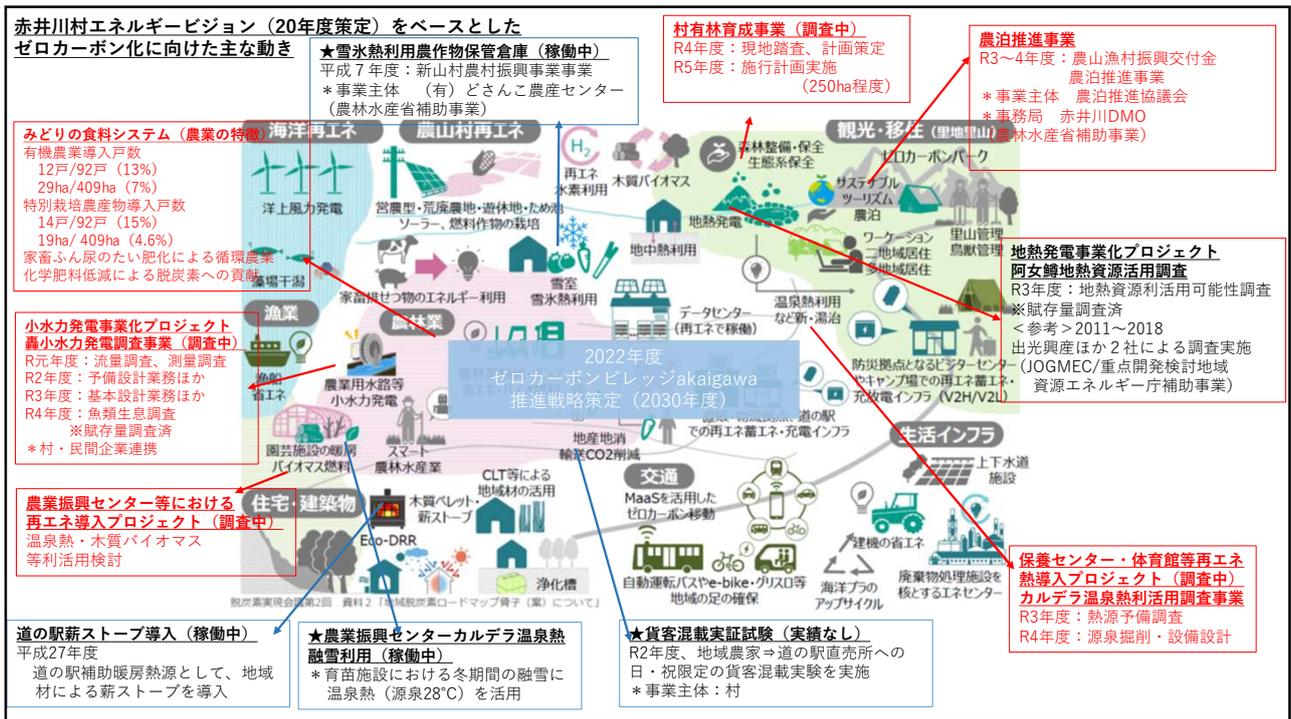
各種統計・都道府県按分法による赤井川村の二酸化炭素排出量の推計
(北大生シミュレーション)

排出量 | 8,465t-CO2/年 > 吸収量 | 1,667t-CO2/年

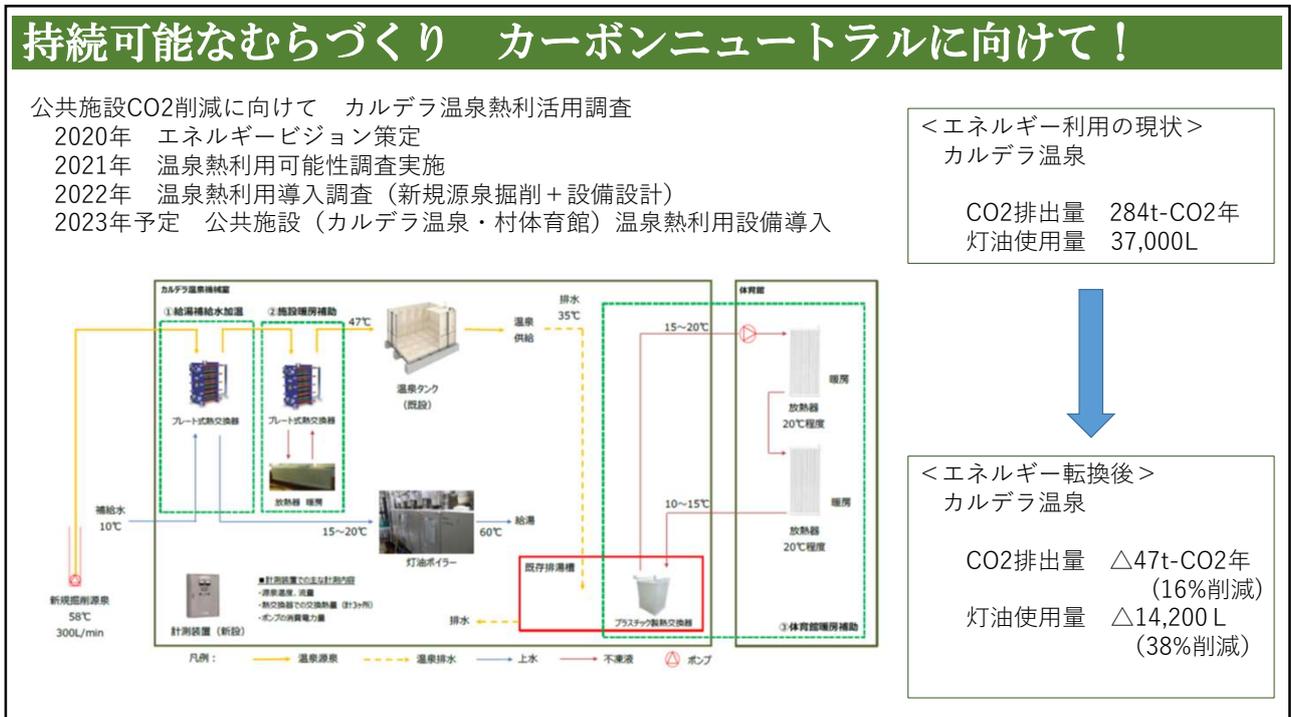


地域の実測値に基づいた二酸化炭素排出量の推計を赤井川村をフィールドに実施中
ゼロカーボン・ロードマップを検討

20



21



22

持続可能なむらづくり カーボンニュートラルに向けて！

－木質系バイオマス可能性－
村有林 森林整備の施業

－暮らしに寄与する脱炭素－
暮らし・しごと（農業＋観光）・経済循環
につながるプロジェクトの構築



**2022年度
ゼロカーボンビレッジakaigawa
推進戦略策定（目標 2030年度）**

－産官学連携－
民間企業・行政・大学

－公共施設の改善計画－
暖房機器の効率化・断熱性向上

－住民対話－
住民理解と学ぶ場

23



農村にこそ

日本最後の成長余力がある！

the most beautiful
**villages
in japan**

「日本で最も美しい村」連合



北海道赤井川村
Village 02

24

赤井川村 赤木陽介さん（アスパラ王子）

コロポックル村

アスパラを地めとする有機野菜、平飼有精卵の生産を行うコロポックル村公式サイトです
〒046-0501 北海道余市郡赤井川村字赤井川582



コロポックル村はアスパラを中心に各種季節野菜や平飼有精卵の生産、食肉・農産加工販売を行っております。

私たちは生産・加工方法に独自のポリシーを持っており、それらを発信しながら生産と消費の距離を縮める努力を続けていきます。

食べる人、作る人のお互いが支えあうことが出来る仕組み。

コロポックル村で作上げるものは様々です。



- [トップページ](#)
- [オンラインショップ](#)
- [コンセプト](#)
- [こだわりの逸品](#)
- [新規就農支援](#)
- [Instagram](#)
- [Twitter](#)
- [ブログ](#)
- [レシピ](#)
- [求人情報](#)
- [アクセス](#)
- [会社案内](#)
- [お問い合わせ](#)
- [プライバシーポリシー](#)

25

赤井川村 赤木陽介さん

コロポックル村

食べる人を想像し、食べることから笑顔を作り出す。
そんな力のある野菜や加工品を作っていきたい。

「美味しい」「安心」「安全」をスタンダードに、透明性を確保するために畑や施設の一部で、農林水産省が推進している農業生産工程管理手法「JGAP」(Japan Good Agricultural Practice)と「有機JAS」を取得済みです。(JGAP認証番号：ACCIS-G20-042401)

農業生産も、加工も私たちは素人、異業種からの出発。
だからこそ挑戦できたことや失敗したこと、私たち自身が消費者であること、いくらか経験を重ねても忘れてはいけない原点です。

近年では地域とのかかわりや、赤井川村基幹産業の農業へ他地域からの新規就農・就農支援が出来るような育成体制作りにも力を入れています。

私達自身が好きなもの、追いかける旬、
追及したいことを中心に、ストーリーや背景を押しつけることなく食べた後に思い起こさせるような野菜や加工品を作ります！



26

赤井川村 赤木陽介さん

私たちは移住、新規就農を支援します。

就農と一言にいても「どのように農業を始めるの？」
私達自身そのような疑問を感じて農業を始めました。

自身の土地や貸農園で野菜を作ってみたり、
空き地や庭のプランターでトマトを育てたり。それも一つの農作業だと思います。

ですが、農業専用の土地いわゆる「農地」を取得したり、国や地方自治体の制度を使って
事業展開したりするには国や地域に認定された農業者になる必要があります。
種類や方法も専業や兼業、慣行・有機・自然栽培と色々ありますが
いわゆるプロとしての農家です。農業者にしかできない特権がいくつもあります。
ですが農業者への入り口は意外と狭く、わかりづらいのが現状。

コロポックル村では赤井川村に移住し正社員として3年程勤務、研修を行い
この地で独立してもらって独立型就農支援をしていきたいと考えております。
就農へのハードルはいくつもありますし、
地域を問わず様々な形で新規就農して苦労されている方も大勢います。
ですが最初は農業への興味、意欲、田舎への憧れが優先で問題ないと考えています。

赤井川村での農業や将来的な就農に興味のある方はご相談ください。
コロポックル村で研修する以外のパターンや私たちの知っている他町村の情報、
新規就農した先輩農家の情報も提供できると思います。
(繁忙期や作業の都合で返信連絡が遅れる場合があります。ご了承ください)



27

赤井川村の農村風景



28

赤井川村の農村風景



29

赤井川村の農村風景



30

赤井川村の農村風景



31